

愛犬との ふれあいの俳句



冬

佐怒賀正美 選

特選

愛犬と何百万歩年の暮

伊東 真

今年もよく犬と歩いた。毎日一万歩を目指したが、一年間に換算すると三百六十五万歩。何百万なんて天体的数字だと思っていたが、すこし身近に思えてきた。ともあれこの一年間の愛犬と自分の健康にまずは感謝。

門番になれぬ冬日の匂う犬

折田祐美子

老犬になったのか、人が怖い犬なのか、人に懐きやすい犬なのか。ともあれ、門番には不向きな愛犬。庭先で、たつぷり冬日を浴びて安らいでいる。作者が帰ってくる、出迎えてはくれるが、冬日の匂いがたつぷり。

立ち孫とお座り犬や雪景色

白石 雅義

庭先が縁側か、幼い孫と愛犬とが雪景色を一緒に見ている。孫は立ち、犬は座って。お互いにそれが今は自然な姿勢なのだろう。「立ち孫」「お座り犬」と工夫した言葉遣いが「雪景色」の愛でたさを生かしている。

愛犬の鼓動小雪の病院へ

星月彩也華

犬や猫を飼っていると、不調に出合ふことがある。同時作に「愛犬を毛布に包み病院へ」もあったが、愛犬を抱いて病院へ急いでいる。少し生々しく犬の鼓動が手に伝わる。大雪になる前にと病院へ急ぐ作者の心中が覗かれる。

冬夕焼犬の尻尾の正直さ

前田 千穂

たとえば、大きな冬の夕焼であるうか。犬も尻尾を下ろしてその荘厳さに打たれているようだ。でも作者が声を掛けるとすぐに尻尾を振ってくる。「尻尾の正直さ」とは、ありそうでなかなか言われなかった表現ではないか。

募集要項

■日本での唯一の「犬」をテーマにした俳壇です。愛犬とのふれあひの中で得た感慨を俳句にして応募ください。

■一般部門と児童・生徒部門（中学生以下）の2部門があります。

■原則として、五七五の17音でまとめてください。

■募集期間は「春」（1～3月）・「夏」（4～6月）・「秋」（7～9月）・「冬」（10～12月）年4回の開催で、開催ごとに最終月末に締め切りします。

■応募作品には、四季折々の「季節（季節を表す言葉）」を入れてください。

■ハガキの裏面に以下の必要事項をはつくり横書きで明記してください。①作品（自作未発表に限り、ハガキ1通につき2句まで）②住所氏名（ふりがな）③年齢・性別・会員番号、電話番号※おとりで何通でも応募いただけます。

■送り先 〒101-8552 東京都千代田区神田須田町1-5（一社）ジャパンケネルクラブ広報課「愛犬とのふれあひの俳句」係

入賞・発表

■開催ごとに以下の入賞句を選出します。

特選…5句
入選…10句
佳作…20句以内
児童・生徒の部入選…若干句

※入賞された方には、記念品・図書カードをお送りします。入選句は会報誌「JKCガゼット」に掲載されます。

入選

父逝きて星守る犬聖夜待つ

内田 学

女正月「ちまき」と決まる仔犬の名

大谷 昌子

風呂吹をふうふう少し犬に分け

沖野 晶子

手袋を脱いで子犬の暖かさ

北内 康文

冬の夕ガラスに映る留守番犬

関根由美子

佳作

犬も寄る底冷えの夜まあるく寝

飯田 芳枝

着ぶくれた犬と飼い主とことこと

池本 千恵

帰り花犬は犬見て立ち止まる

石山 敏郎

お正月猫にやられたうちの犬

磯 政美

すれ違ふテリアと柴犬落葉道

木村 隆夫

愛犬は枯葉プールがお気に入り

木村 達雄

炬燵では添ひ寝も外は駆け出さむ

榊原 康之

雲の影追いかけて犬の冬日向

鈴木 恵美

寒さゆえ二周駆けるやドッグラン

東耕 真

時雨るるや子犬の選ぶ軒の下

野上 卓

愛犬の足の踏ん張り雪しまく

野村 陽子

犬の名で呼び合う仲間福寿草

前田 千文

愛犬の首ぐつと抱く冬銀河

山下 奈美

愛犬と初日待ち居り大型車

中原 政人

冬うらら散歩ぎらいの犬おんぶ

橋本 有子

すれ違ふ愛犬の服冬に入る

平山 良志

庭先で寝ている犬に雪つもる

星野美江子

大寒の犬抱き寄せる朝となる

松下 弘美

ハードルを次々跳んで白息の犬

松村 浩子

おののける犬を毛布に包みけり

安田 清一

夜寒急ぐ犬と妻待つ家路かな

吉村 元明

俺に似てきたなと犬におせち分け

渡会 克男